

自分らしい生き方を求めて ライフデザイン支援事業を通して

NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会
まちづくりコーディネーター 渡部 一 清



「自分らしい人生をデザインする」・・・それは、「自分らしい、思いのある生き方」、「アイデンティティのある生き方」、そして「後悔しない人生」を創りだしていくということであろうか。実際には「百人百通りの生き方」が展開するものであろう。

長寿社会の到来とともに、私たちは現職時に加えて、退職後20～30年先のライフデザインも充実させなければならない持代を迎えている。

そんな中、県職員厚生会では、今年度も職員会館『ラ・プラス青い森』に事業委託し、現役職員対象の「ライフプランセミナー」に加え、現役職員とその家族及びOBとその家族を主対象とした「ライフデザイン支援事業」を実施した。

4月に、県職員とそのOBボランティアによる運営委員会を再組織し、6月の「黒石の魅力発見ツアー」を皮切りに、「親子(孫)触れ合い工作教室」、「ダンボールコンポストづくり」、「湖畔の自然散策(鶴田町)」、「スポカル体験ツアー(あすなろ荘)」、「屋形船エコツアー(八戸市)」、「認知症介護セミナー」、「昔の遊び(羽子板づくり)」、「健康と菜食(弘前市)」、その他の15事業を展開し、参加者総数337名を数えた。特に今年度は、弘前市や八戸市方面でも実施し、開催地域の拡大と会員の交流強化に力を注いだ。

結果、現役職員及びその家族の参加が23.74%、職員OB及びその家族が33.53%、準会員13%、その他28.78%であった。現役職員の参加が今ひとつ奮わないのはプログラムが好まれなかったか、あるいは仕事が忙しく参加する余裕をもてなかったなどの理由によるものだろうが、今後の課題となろう。

ところで、学んだ成果を他の人や地域のために生かしながら自己実現を図る「社会参加」もこれまで大いに薦められてきたところであるが、最近、実年対象の調査結果とそれに基づいた「5タイ

プの実年像」が報告された。

「マンマン型」・・・働くこと、ボランティア活動を行うこと、学習活動を行うことなど、何に対しても肯定的且つ積極的であり、社会参加することそれ自体にやる気が「満々＝マンマン」な人たち。

「ホドホド型」・・・どの活動に対しても基本的には積極的な姿勢を示すが、熱烈な意欲を示すほどではない人たちであり、何ごと「程々＝ホドホド」でやって行きたいタイプ。

「シリゴミ型」・・・どの活動に対しても「どちらかといえば行いたくない」、社会参加に対して「尻込み＝シリゴミ」気味の人たち。

「ワガミチ型」・・・社会との一定距離を置きながら、自分自身の世界を大切にしている人たち。いわば「わが道＝ワガミチ」を優先したがる人たち。

「ボンヤリ型」・・・諸々の将来的意向が曖昧で「ぼんやり＝ボンヤリ」傾向を示す人たち。何の活動に対しても、また将来的に働く意向に対しても『分からない』と回答する傾向がある（宇都宮大学生涯教育研究センター助教授 佐々木英和『社会教育』2007年3月号）

このあと社会参加支援に対するタイプ別の示唆も示されているが、紙面の都合で割愛し、「ライフプランセミナー」等へ譲ることとする。

新年度も、「ライフデザイン支援事業」へのご参加とご支援をお願いします。

渡部先生には、昨年に引き続きライフデザイン支援事業企画・運営会議のコーディネーターをお引き受けいただきました。11名の委員のを引き出し、様々な提案を具体的な形にして

また、6月23日ライフデザイン平成19年ことはじめ講座、そして11月3日バイオ燃料使用エコ屋形船で行く、2月23日ライフサポートセミナー